

平成 30 年度  
日本商工会議所

---

# 第149回

## 簿記検定試験

2 級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。  
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

**LEC**東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド  
(C) 2018 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan  
無断複製・無断転載等を禁じます。  
有効期限 2018年6月10日/2018年11月17日



0 000212 182051

BL18205

第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	当 座 預 金 電子記録債権売却損	297,200 2,800	電 子 記 録 債 権	300,000
2	満期保有目的債券 有価証券利息	988,000 800	当 座 預 金	988,800
3	建 物 修繕引当金 修 繕 費	180,000 600,000 120,000	当 座 預 金	900,000
4	株式申込証拠金 当 座 預 金	22,400,000 22,400,000	資 本 金 資 本 準 備 金 別 段 預 金	11,200,000 11,200,000 22,400,000
5	リ ー ス 資 産	260,000	リ ー ス 債 務	260,000

仕訳 1 組につき 4 点。

第 2 問 (20 点)

(1)

総勘定元帳

買掛金

年月日	摘要		借方	年月日	摘要		貸方		
X1	2	28	普通預金	3,150,000	X1	1	1	前期繰越	3,150,000
	7	31	普通預金	3,240,000		4	30	商品	3,240,000
	12	31	次期繰越	2,640,000		11	1	商品	2,508,000
						12	31	為替差損	132,000
				9,030,000					9,030,000

商品

年月日	摘要		借方	年月日	摘要		貸方		
X1	1	1	前期繰越	2,000,000	X1	1	31	売上原価	1,000,000
	4	30	買掛金	3,240,000		5	15	売上原価	1,060,000
	11	1	買掛金	2,508,000		6	30	売上原価	1,060,000
						11	15	売上原価	1,735,500
						12	1	売上原価	1,735,500
						12	31	棚卸減耗損	57,850
						12	31	次期繰越	1,099,150
				7,748,000					7,748,000

機械装置

年月日	摘要		借方	年月日	摘要		貸方		
X1	11	1	未払金	5,814,000	X1	12	31	減価償却費	96,900
						12	31	次期繰越	5,717,100
				5,814,000					5,814,000

(2) 損益の金額

- ① 当期の売上高 ¥ 12,525,000
- ② 当期の為替差損 ¥ ★ 708,000
- ③ 当期の為替差益 ¥ ★ 0

につき 2 点、★につき 1 点

第149回 解答 —商業簿記—

第3問 (20点)

損 益

日付		摘 要	金 額	日付		摘 要	金 額
3	31	仕 入	★ 3,633,000	3	31	売 上	★ 7,560,000
3	31	棚卸減耗損	★ 22,680	3	31	受取手数料	★ 48,700
3	31	商品評価損	★ 19,400	3	31	有価証券利息	★ 13,000
3	31	支払家賃	★ 720,000	3	31	有価証券売却益	★ 10,000
3	31	給 料	★ 900,000	3	31	受取配当金	★ 20,000
3	31	広告宣伝費	★ 259,000	3	31	支 店	★ 208,250
3	31	減価償却費	★ 160,000				
3	31	貸倒引当金繰入	★ 80				
3	31	(のれん)償却	★ 120,000				
3	31	租 税 公 課	★ 415,200				
3	31	支 払 利 息	★ 56,000				
3	31	(繰越利益剰余金)	★ 1,554,590				
			7,859,950				7,859,950

につき1点 ★につき1点

第 4 問 (20 点)

仕 掛 品	
期首有高	585,000
直接材料費	( ★ 3,945,000 )
直接労務費	( ★ 1,625,000 )
変動製造間接費	( 650,000 )
	( 6,805,000 )
当期完成高	( 6,165,000 )
期末有高	( 640,000 )
	( 6,805,000 )

直接原価計算による損益計算書

(単位：円)

I 売上高		10,070,000
II 変動売上原価		
1 期首製品棚卸高	710,000	
2 当期製品変動製造原価	( ★ 6,165,000 )	
合計	( 6,875,000 )	
3 期末製品棚卸高	( 625,000 )	
差引	( 6,250,000 )	
4 原価差益	( 40,000 )	( 6,290,000 )
変動製造マージン		( ★ 3,780,000 )
III 変動販売費		( 655,000 )
貢献利益		( 3,125,000 )
IV 固定費		
1 製造固定費	( 1,374,000 )	
2 固定販売費・一般管理費	( 881,000 )	( ★ 2,255,000 )
営業利益		( 870,000 )

★につき 4 点

第 5 問 (20 点)

第 1 工程月末仕掛品の原料費 =	138,000	円
第 1 工程月末仕掛品の加工費 =	135,000	円
第 2 工程月末仕掛品の前工程費 =	680,000	円
第 2 工程月末仕掛品の加工費 =	256,000	円
第 2 工程完成品総合原価 =	9,288,000	円

各 4 点

【2 級総評】

全体としては、難しい問題でした。第 1 問と第 5 問は基本的な問題でした。しかし、第 2 問と第 3 問は作業量が多く、いずれも 14 点以上確保するのが難しく、現実的には、いずれも 10 点程度が目標となる問題でした。また、第 4 問は基本的事項を問う良問ですが、受験生にとっては解答しにくい問題であったと思われます。そのため、合格のためには、第 1 問と第 5 問は満点、第 2 問と第 3 問で 20 点程度、第 4 問は 12 点程度を確保する必要があったと思われます。

【解 説】

第 1 問

仕訳に関する問題です。勘定科目の指定に注意しましょう。

1. 電子記録債権の割引

手形の割引と同様に考えればよいです。割引料は電子記録債権売却損で処理し、手取額は当座預金の増加とします。

2. 満期保有目的債券の取得と端数利息

利払日以外の日には公社債を売買した場合は、直前の利払日の翌日から売買日までの利息を買主が売主に支払わなくてはなりません。これを端数利息といいます。本問では、社債の代金とは別に、4 月 1 日から 6 月 19 日までの 80 日分の端数利息を支払うこととなります。端数利息は有価証券利息で処理します。

$$\text{満期保有目的債券} : \text{¥}1,000,000 \times \frac{\text{@ ¥}98.80}{\text{@ ¥}100} = \text{¥}988,000$$

$$\text{端数利息} : \text{¥}1,000,000 \times 0.365\% \times \frac{80 \text{日}}{365 \text{日}} = \text{¥}800$$

3. 建物の修繕

修繕代金のうち 20% 分は、改良のための支出であることから資本的支出として建物の取得原価に加算します。残額の 80% 分は収益的支出となるため、前期末に見積り計上した修繕引当金を充当し、不足分は修繕費とします。なお、資本的支出と判断すべきキーワードには、以下のようなものがあります。

資本的支出のキーワード：改良、耐震構造強化の効果あり、耐用年数延長の効果あり

4. 増資

増資にあたり、払込期間中に受取った申込証拠金を株式申込証拠金で処理し、当座預金などの他の預金と区別するため別段預金としています。その後、払込期日となり株式の発行手続きが完了したら、株式申込証拠金とした ¥22,400,000 を資本金等に振替えます。本問では、半分を資本金に組入れます。資本金に組入れなかった分は、資本準備金とします。

$$\text{受取った申込証拠金} : \text{@ ¥}28,000 \times 800 \text{株} = \text{¥}22,400,000$$

$$\text{資本金組入額} : \text{¥}22,400,000 \times \frac{1}{2} = \text{¥}11,200,000$$

$$\text{資本準備金} : \text{¥}22,400,000 - \text{¥}11,200,000 = \text{¥}11,200,000$$

払込金受取時

： (借) 別 段 預 金 22,400,000 (貸) 株 式 申 込 証 拠 金 22,400,000 :

5. ファイナンス・リース取引と利子抜き法

ファイナンス・リース取引を利子抜き法で処理する場合、リース契約の締結時に、リース資産及びリース債務を見積現金購入価額で処理します。

第 2 問

商品売買と外貨建て取引に関する問題です。商品売買については、売上原価対立法が問われています。全体的に処理量が多く、解答に手間がかかる問題です。全てを解答しようとせず、まずは、部分点がとれそうな内容を把握し、部分点を少しでも積上げることができたかが、合否の分かれ目となります。具体的には、機械装置・買掛金・当期の売上高・為替差損に関する部分を優先的に解答できたかが重要です。

I. 機械装置に関する仕訳

11月1日 機械装置の購入

(借)	機 械 装 置	5,814,000	(貸)	未 払 金	5,814,000
-----	---------	-----------	-----	-------	-----------

購入価額の円換算額：51,000 ドル×¥114=¥5,814,000

12月31日 決算整理

① 未払金の期末換算

(借)	為 替 差 損	306,000	(貸)	未 払 金	306,000
-----	---------	---------	-----	-------	---------

未払金の期末換算額：51,000 ドル×¥120=¥6,120,000  
 為替差損：¥6,120,000－¥5,814,000=¥306,000

② 機械装置の減価償却

(借)	減 価 償 却 費	96,900	(貸)	機 械 装 置	96,900
-----	-----------	--------	-----	---------	--------

減価償却費：(¥5,814,000－¥0) ÷ 10年 ×  $\frac{2ヶ月}{12ヶ月}$  = ¥96,900

II. 商品Xの原価の動き

商品売買に関する部分については、外貨建て取引に関する円換算とともに、商品BOX（商品有高帳を簡略的に示した図）で、在庫の動きを把握しながら処理を考える必要があります。

商品BOX		(移動平均法)
1 / 1 前期繰越	@ ¥1,000 2,000 個 ¥2,000,000	1 / 31 売上 @ ¥1,000 1,000 個 ¥1,000,000
		5 / 15 売上 @ ¥1,060 1,000 個 ¥1,060,000
4 / 30 仕入	@ 10 ドル × ¥108 = @ 1,080 @ ¥1,080 3,000 個 ¥3,240,000	6 / 30 売上 @ ¥1,060 1,000 個 ¥1,060,000
4 / 30 時点の平均単価	@ ¥1,060	11 / 15 売上 @ ¥1,157 1,500 個 ¥1,735,500
11 / 1 仕入	@ 11 ドル × ¥114 = @ ¥1,254 @ ¥1,254 2,000 個 ¥2,508,000	12 / 1 売上 @ ¥1,157 1,500 個 ¥1,735,500
11 / 1 時点の平均単価	@ ¥1,157	12 / 31 棚卸減耗損 @ ¥1,157 50 個 ¥ 57,850
		12 / 31 次月繰越 @ ¥1,157 950 個 ¥1,099,150

4/30 時点の平均単価  
 $\frac{¥1,000,000 + ¥3,240,000}{1,000個 + 3,000個}$   
 = @ ¥1,060

11/1 時点の平均単価  
 $\frac{¥2,120,000 + ¥2,508,000}{2,000個 + 2,000個}$   
 = @ ¥1,157

## 第 149 回 解 説 — 商業簿記 —

### Ⅲ. 商品売買及び買掛金に関する仕訳

売上については、掛売上であったとして仕訳を示すと以下のようになります。

1 月 31 日 売上

(借) 売 掛 金 1,800,000	(貸) 売 上 1,800,000
売上原価 1,000,000	商 品 1,000,000

売上：@ ¥1,800 × 1,000 個 = ¥1,800,000

売上原価：@ ¥1,000 × 1,000 個 = ¥1,000,000

2 月 28 日 買掛金支払い

(借) 買 掛 金 3,150,000	(貸) 普 通 預 金 3,300,000
為替差損 150,000	

普通預金：¥3,150,000 ÷ ¥105 = 30,000 ドル

30,000 ドル × ¥110 = ¥3,300,000

為替差損：¥3,300,000 - ¥3,150,000 = ¥150,000

4 月 30 日 仕入

(借) 商 品 3,240,000	(貸) 買 掛 金 3,240,000
-------------------	---------------------

仕入原価：@ 10 ドル × ¥108 × 3,000 個 = ¥3,240,000

平均単価：
$$\frac{¥1,000,000 + ¥3,240,000}{1,000\text{個} + 3,000\text{個}} = @ ¥1,060$$

5 月 15 日 売上

(借) 売 掛 金 2,000,000	(貸) 売 上 2,000,000
売上原価 1,060,000	商 品 1,060,000

売上：@ ¥2,000 × 1,000 個 = ¥2,000,000

売上原価：@ ¥1,060 × 1,000 個 = ¥1,060,000

6 月 30 日 売上

(借) 売 掛 金 2,050,000	(貸) 売 上 2,050,000
売上原価 1,060,000	商 品 1,060,000

売上：@ ¥2,050 × 1,000 個 = ¥2,050,000

売上原価：@ ¥1,060 × 1,000 個 = ¥1,060,000

7 月 31 日 買掛金支払い

(借) 買 掛 金 3,240,000	(貸) 普 通 預 金 3,360,000
為替差損 120,000	

普通預金：@ 10 ドル × 3,000 個 = 30,000 ドル

30,000 ドル × ¥112 = ¥3,360,000

為替差損：¥3,360,000 - ¥3,240,000 = ¥120,000

11 月 1 日 仕入

(借) 商 品 2,508,000	(貸) 買 掛 金 2,508,000
-------------------	---------------------

仕入原価：@ 11 ドル × ¥114 × 2,000 個 = ¥2,508,000

平均単価：
$$\frac{¥2,120,000 + ¥2,508,000}{2,000\text{個} + 2,000\text{個}} = @ ¥1,157$$



11 月 15 日 売上

(借)	売	掛	金	3,300,000	(貸)	売	上	3,300,000	
	売	上	原	価	1,735,500		商	品	1,735,500

売上：@ ¥2,200 × 1,500 個 = ¥3,300,000

売上原価：@ ¥1,157 × 1,500 個 = ¥1,735,500

12 月 1 日 売上

(借)	売	掛	金	3,375,000	(貸)	売	上	3,375,000	
	売	上	原	価	1,735,500		商	品	1,735,500

売上：@ ¥2,250 × 1,500 個 = ¥3,375,000

売上原価：@ ¥1,157 × 1,500 個 = ¥1,735,500

12 月 31 日 決算整理

① 買掛金の期末換算

(借)	為	替	差	損	132,000	(貸)	買	掛	金	132,000
-----	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

買掛金の期末換算額：@ 11 ドル × 2,000 個 = 22,000 ドル

22,000 ドル × ¥120 = ¥2,640,000

為替差損：¥2,640,000 - ¥2,508,000 = ¥132,000

② 棚卸減耗損の計上

商品 X の期末帳簿棚卸数量は 1,000 個になりますが、期末実地棚卸数量は 950 個なので、50 個の棚卸減耗が生じています。なお、棚卸減耗損は「独立の項目として表示している」との注意事項があるので、売上原価には振替えません。

(借)	棚	卸	減	耗	損	57,850	(貸)	商	品	57,850
-----	---	---	---	---	---	--------	-----	---	---	--------

期首棚卸数量：2,000 個

当期仕入数量：3,000 個 + 2,000 個 = 5,000 個

当期販売数量：1,000 個 + 1,000 個 + 1,000 個 + 1,500 個 + 1,500 個 = 6,000 個

期末帳簿棚卸数量：2,000 個 + 5,000 個 - 6,000 個 = 1,000 個

棚卸減耗損：(1,000 個 - 950 個) × @ ¥1,157 = ¥57,850

Ⅲ. 各問の解答

(1) 勘定記入

買掛金、商品、機械装置の各勘定について、期首から期末までの流れに注意しながら記入します。なお、移動平均法で処理するため、商品勘定の貸方以外の部分を優先的に記入することで、効率よく部分点をとることができます。

(2) 売上高等の金額

① 当期の売上高

[資料 2] の商品販売取引に基づいて計算することで、仕訳を考えなくても集計できます。

@ ¥1,800 × 1,000 個 + @ ¥2,000 × 1,000 個 + @ ¥2,050 × 1,000 個

+ @ ¥2,200 × 1,500 個 + @ ¥2,250 × 1,500 個 = ¥12,525,000

② 当期の為替差損

上述の仕訳から為替差損の金額を集計します。

未払金分：¥306,000

買掛金分：¥150,000 + ¥120,000 + ¥132,000 = ¥402,000

合計：¥306,000 + ¥402,000 = ¥708,000

③ 当期の為替差益

為替差益は生じていません。

第3問

本支店会計に関する問題です。本店の損益勘定の作成が求められているため、本店の損益に関わる内容を優先的に解答する必要があります。特に、(C) 決算整理事項等については、本店の決算整理事項等を確実に解いていくことが重要です。

(B) 未処理事項

(1) 本店の売掛金回収

本店において、売掛金の回収の処理が未処理となっているため、仕訳を行います。

<本店の仕訳>

(借)	当座預金	60,000	(貸)	売掛金	60,000
-----	------	--------	-----	-----	--------

(2) 本店の車両購入

本店において、車両の購入の処理が未処理となっているため、仕訳を行います。

<本店の仕訳>

(借)	車両運搬具	2,000,000	(貸)	未払金	2,000,000
-----	-------	-----------	-----	-----	-----------

(3) 支店の誤記帳

支店において、本店からの現金送金の処理について金額が誤っていたため、訂正仕訳を行います。

<支店の仕訳>

(借)	本店	9,000	(貸)	現金	9,000
-----	----	-------	-----	----	-------

(4) 本店から支店への商品の移送

本店から支店へ商品を移送した場合の処理については、以下の2つの方法があります。

① 本店において仕入を取消し、支店において仕入を計上する方法

② 本店から支店に商品を売ったと考える方法

②の場合には、本店では「支店へ売上」、支店では「本店より仕入」という勘定科目を使用しますが、本問においては、決算整理前の残高試算表にこれらの勘定科目がないため、①の方法で処理します。

本店、支店ともに未処理となっているため、仕訳を行います。

<本店の仕訳>

(借)	支店	108,000	(貸)	仕入	108,000
-----	----	---------	-----	----	---------

<支店の仕訳>

(借)	仕入	108,000	(貸)	本店	108,000
-----	----	---------	-----	----	---------

(C) 決算整理事項等

本店・支店ともに、決算整理を行い、収益・費用の決算整理後残高にもとづいて損益振替を行います。ただし、本問では、本店の損益勘定のみを作成するため、本店の収益・費用に関わる決算整理を優先的に解答すべきです。そのため、支店の決算整理事項等は、すべて後回しにしなければいけません。

【本店の決算整理事項等】

(1) 売上原価の算定と期末商品の評価

棚卸減耗損と商品評価損を計算し、帳簿上は独立の費用として処理します。

(借) 仕 入	717,000	(貸) 繰 越 商 品	717,000
(借) 繰 越 商 品	756,000	(貸) 仕 入	756,000
(借) 棚 卸 減 耗 損	22,680	(貸) 繰 越 商 品	22,680
(借) 商 品 評 価 損	19,400	(貸) 繰 越 商 品	19,400

帳簿棚卸高 ¥756,000

原価@756 時価*@736	商品評価損 ¥19,400	棚卸 減耗損 ¥22,680
	実地 970 個	

※ 正味売却価額を時価としています。

(2) 貸倒引当金の設定

未処理事項等処理後の売掛金の期末残高に対して1%の貸倒引当金を設定します。

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	80	(貸) 貸 倒 引 当 金	80
-------------------	----	---------------	----

売掛金の期末残高：¥1,098,000 - ¥60,000 = ¥1,038,000

貸倒見積高：¥1,038,000 × 1% = ¥10,380

貸倒引当金繰入：¥10,380 - ¥10,300 = ¥80

(3) 有形固定資産の減価償却

本店では、従来から保有している備品と当期に取得した車両について減価償却を行います。

(借) 減 価 償 却 費	160,000	(貸) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	120,000
		車 両 減 価 償 却 累 計 額	40,000

備品：(¥600,000 - ¥0) ÷ 5年 = ¥120,000

車両：(¥2,000,000 - ¥0) ×  $\frac{3,000\text{km}}{150,000\text{km}}$  = ¥40,000

(4) 満期保有目的債券

額面金額と取得価額との差額について償却原価法を適用します。

(借) 満 期 保 有 目 的 債 券	1,000	(貸) 有 価 証 券 利 息	1,000
---------------------	-------	-----------------	-------

取得日から満期日までの月数：10年 × 12ヶ月 = 120ヶ月

当期の償却額：(¥1,000,000 - ¥990,000) ×  $\frac{12\text{ヶ月}}{120\text{ヶ月}}$  = ¥1,000

## 第 149 回 解 説 — 商業簿記 —

- (5) その他有価証券の時価評価  
 その他有価証券の時価評価により生じる評価差額は、利益計算に影響がないため、損益勘定作成上、処理しなくても問題ありません。

(借) その他有価証券	59,000	(貸) その他有価証券評価差額金	59,000
-------------	--------	------------------	--------

評価差額：時価－帳簿価額＝¥784,000－¥725,000＝¥59,000

- (6) 経過勘定項目  
 給料の見越しと支払家賃の繰延べをします。

(借) 給料	70,000	(貸) 未払給料	70,000
(借) 前払家賃	60,000	(貸) 支払家賃	60,000

- (7) 消費税の処理  
 消費税の処理を税込方式で行っている場合、仮受消費税と仮払消費税との差額に相当する金額を租税公課で処理しますが、本問では、支店の分も含めて、本店で処理します。

(借) 租税公課	415,200	(貸) 未払消費税	415,200
----------	---------	-----------	---------

本店と支店の売上合計：¥7,560,000＋¥3,240,000＝¥10,800,000

本店と支店の仕入合計：(¥3,780,000－¥108,000)＋(¥1,414,800＋¥108,000)＝¥5,194,800

租税公課：¥10,800,000× $\frac{8}{108}$ －¥5,194,800× $\frac{8}{108}$ ＝¥415,200

- (8) のれんの償却  
 前期末までに3回決算を迎えているため、決算整理前残高は当期首から7年分に対応します。

(借) のれん償却	120,000	(貸) のれん	120,000
-----------	---------	---------	---------

のれん償却：¥840,000× $\frac{12ヶ月}{84ヶ月}$ ＝¥120,000

- (9) 広告宣伝費の支店負担分  
 本店で計上している広告宣伝費の一部を支店の負担とするため、本店では、広告宣伝費を減額させます。

(借) 支店	60,000	(貸) 広告宣伝費	60,000
--------	--------	-----------	--------

- (10) 支店の損益の受入  
 支店の決算整理事項等を処理後、支店における損益振替を行ってから処理します。  
 後述の【支店の損益の処理】を確認してください。

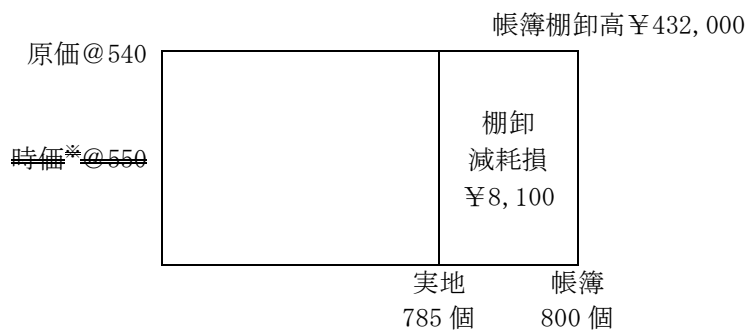
【支店の決算整理事項等】

支店の決算整理事項等をすべて行い、損益振替を行います。そして、損益勘定で算定された損益を、本店の帳簿で受入れる処理を行います。なお、本問では、支店の損益勘定が完全に作成できなければ、得点につながらないので、時間に余裕がある場合を除き、手を付けてはいけない内容になります。

(1) 売上原価の算定と期末商品の評価

棚卸減耗損と商品評価損を計算し、帳簿上は独立の費用として処理します。なお、本問では、正味売却価額が原価を上回っているため、商品評価損は生じません。

(借) 仕 入	483,000	(貸) 繰 越 商 品	483,000
(借) 繰 越 商 品	432,000	(貸) 仕 入	432,000
(借) 棚 卸 減 耗 損	8,100	(貸) 繰 越 商 品	8,100



※ 正味売却価額を時価としています。

(2) 貸倒引当金の設定

売掛金の期末残高に対して 1%の貸倒引当金を設定します。

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	2,450	(貸) 貸 倒 引 当 金	2,450
-------------------	-------	---------------	-------

貸倒見積高： $¥865,000 \times 1\% = ¥8,650$

貸倒引当金繰入： $¥8,650 - ¥6,200 = ¥2,450$

(3) 有形固定資産の減価償却

支店では、従来から保有している備品について減価償却を行います。

(借) 減 価 償 却 費	70,000	(貸) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	70,000
---------------	--------	-----------------------	--------

備品： $(¥350,000 - ¥0) \div 5 \text{年} = ¥70,000$

(4) 満期保有目的債券

本問において、支店での処理はありません。

(5) その他有価証券の時価評価

本問において、支店での処理はありません。

(6) 経過勘定項目

給料の見越しと支払家賃の見越しをします。

(借) 給 料	50,000	(貸) 未 払 給 料	50,000
(借) 支 払 家 賃	50,000	(貸) 未 払 家 賃	50,000

## 第149回 解説 —商業簿記—

- (7) 消費税の処理  
本間において、支店での処理はありません。
- (8) のれんの償却  
本間において、支店での処理はありません。
- (9) 広告宣伝費の支店負担分  
本店で計上している広告宣伝費の一部を支店の負担とするため、支店では、広告宣伝費を増額させます。

(借)	広 告 宣 伝 費	60,000	(貸)	広 告 宣 伝 費	60,000
-----	-----------	--------	-----	-----------	--------

- (10) 支店の損益の本店勘定への振替  
支店の決算整理事項等を処理後、支店における損益振替を行ってから処理します。  
後述の【支店の損益の処理】を確認してください。

### 【損益振替】

本店・支店ともに、収益・費用の決算整理後残高にもとづいて損益振替を行い、本店・支店独自の損益を把握します。

#### <本店の損益振替>

損益振替仕訳をします。損益勘定の残高として、本店独自の利益が¥1,346,340と算定できます。

(借)	売	上	7,560,000	(貸)	損	益	7,651,700
	受 取 手 数 料		48,700				
	有 価 証 券 利 息		13,000				
	有 価 証 券 売 却 益		10,000				
	受 取 配 当 金		20,000				
(借)	損	益	6,305,360	(貸)	仕	入	3,633,000
					棚 卸 減 耗 損		22,680
					商 品 評 価 損		19,400
					支 払 家 賃		720,000
					給	料	900,000
					広 告 宣 伝 費		259,000
					減 価 償 却 費		160,000
					貸 倒 引 当 金 繰 入		80
					の れ ん 償 却		120,000
					租 税 公 課		415,200
					支 払 利 息		56,000

<支店の損益振替>

損益振替仕訳をします。損益勘定の残高として、支店独自の利益が¥208,250 と算定できます。

(借) 売	上	3,240,000	(貸) 損	益	3,241,800	
	受 取 手 数 料	1,800				
(借) 損	益	3,033,550	(貸) 仕	入	1,573,800	
				棚 卸 減 耗 損	8,100	
				支 払 家 賃	600,000	
				給	料	660,000
				広 告 宣 伝 費	119,200	
				減 価 償 却 費	70,000	
				貸 倒 引 当 金 繰 入	2,450	

(支店)		損	益		
仕	入	1,573,800	売	上	3,240,000
棚 卸 減 耗 損		8,100	受 取 手 数 料		1,800
支 払 家 賃		600,000			
給	料	660,000			
広 告 宣 伝 費		119,200			
減 価 償 却 費		70,000			
貸 倒 引 当 金 繰 入		2,450			

【支店の損益の処理】

本店の帳簿上で会社全体の損益を把握するため、支店では、支店の利益を本店勘定に振替えます。また、本店では、損益勘定で支店の利益を受入れます。

<支店の仕訳>

(借) 損	益	208,250	(貸) 本	店	208,250
-------	---	---------	-------	---	---------

<本店の仕訳>

(借) 支	店	208,250	(貸) 損	益	208,250
-------	---	---------	-------	---	---------

【資本振替】

本店の帳簿上で支店の損益を受入れたあと、本店の損益勘定の残高を繰越利益剰余金勘定へ振替えます。

<本店の仕訳>

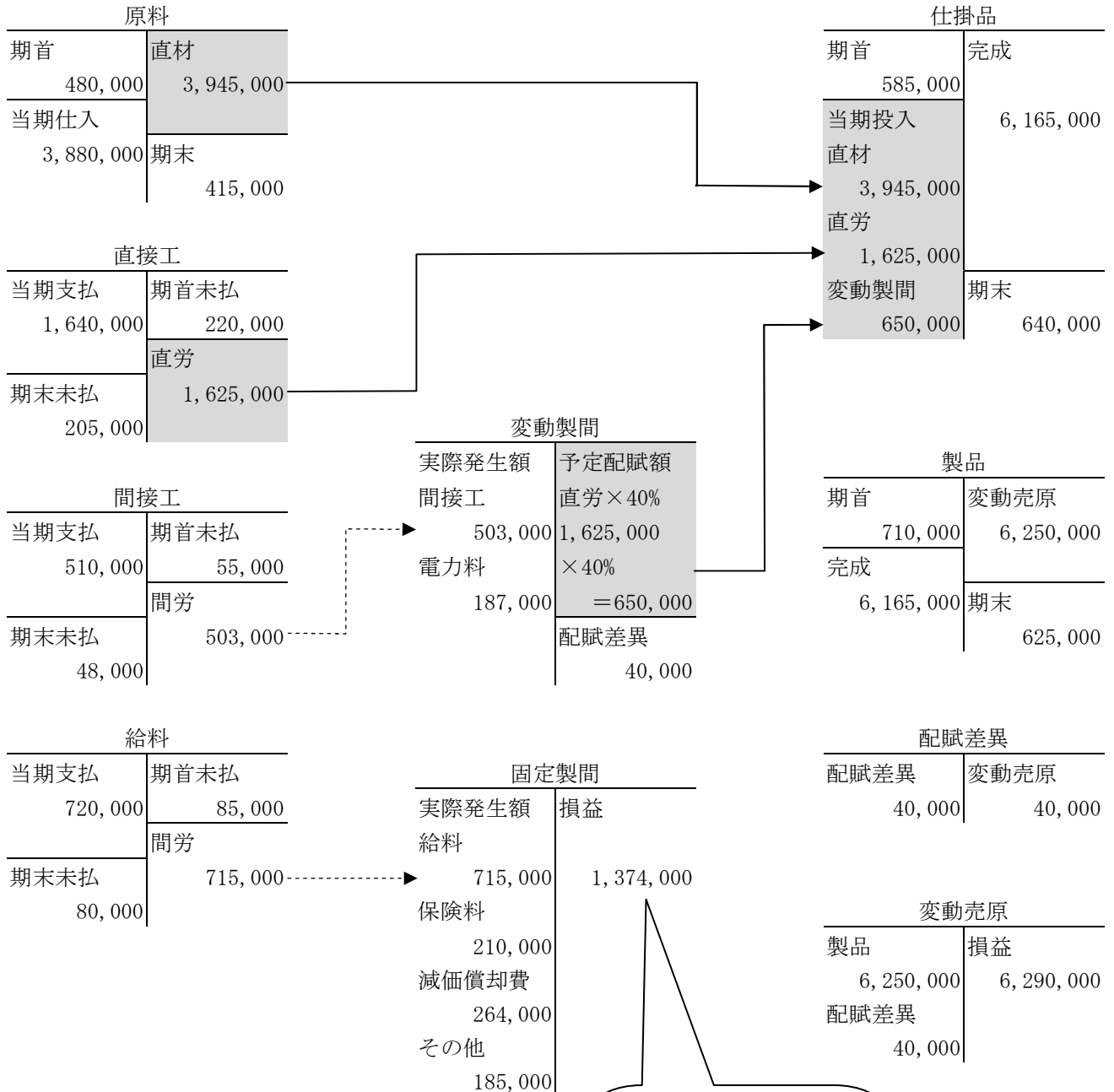
(借) 損	益	1,554,590	(貸) 繰 越 利 益 剰 余 金	1,554,590
-------	---	-----------	-------------------	-----------

第4問

直接原価計算に基づいた仕掛品勘定と損益計算書を完成させる問題です。直接原価計算では変動製造原価のみで完成品の原価を計算し、固定製造原価は実際発生額を全て当期の期間費用とすることに注意が必要です。

解答にあたっては、以下のような勘定連絡図をイメージしながら解答します。

< 勘定連絡図 >



直接原価計算では、固定費は製造原価とならず、実際発生額の全額を当期の費用として計上します。



I. 仕掛品勘定の作成

(1) 直接材料費

原料の消費高が直接材料費となります。

原 料	
期首有高	消費高
480,000 円	3,945,000 円 ⇒ 仕掛品勘定へ
当期仕入高	期末有高
3,880,000 円	415,000 円

(2) 直接労務費

[資料]7. より、直接工は直接作業のみに従事しているため、直接工の消費高が直接労務費となります。

直接工	
当期支払高	期首未払高
1,640,000 円	220,000 円
期末未払高	消費高
205,000 円	1,625,000 円 ⇒ 仕掛品勘定へ

(3) 変動製造間接費

- ① [資料]7. より、直接労務費の 40%が予定配賦額となります。また、実際発生額との差額で求める配賦差異は、変動売上原価に賦課します。
- ② 実際発生額は、[資料]7. より、間接工の消費高と製造経費当期発生高のうち電力料が、変動製造間接費となることが分かります。

間接工	
当期支払高	期首未払高
510,000 円	55,000 円
期末未払高	消費高
48,000 円	503,000 円 ⇒ 変動製造間接費勘定へ

変動製造間接費	
実際発生額	予定配賦額
間接工消費高	1,625,000 円 × 40%
503,000 円	= 650,000 円 ⇒ 仕掛品勘定へ
電力料	配賦差異
187,000 円	40,000 円

(4) 期末有高

[資料]1. より、640,000 円です。

(5) 当期完成高

仕掛品勘定の貸借差額により、6,165,000 円となります。

II. 直接原価計算による損益計算書の作成

(1) 当期製品変動製造原価

仕掛品勘定で算定する当期完成高が対応します。よって、6,165,000 円です。

(2) 期末製品棚卸高

[資料]1. より、625,000 円です。

(3) 原価差異

変動製造間接費勘定を考えて求めます。変動製造間接費の予定配賦額と実際発生額との差額である 40,000 円を記入します。また、借方差異のため、変動売上原価の計算上、加算します。

$$\begin{aligned} \text{原価差異} &: \text{変動製造間接費予定配賦額} - \text{変動製造間接費実際発生額} \\ &= 650,000 \text{ 円} - 690,000 \text{ 円}^* \\ &= \Delta 40,000 \text{ 円 (借方差異)} \end{aligned}$$

$$* \text{ 実際発生額} : 503,000 \text{ 円} + 187,000 \text{ 円} = 690,000 \text{ 円}$$

(4) 変動販売費

[資料]6. より、655,000 円です。

(5) 製造固定費

[資料]7. より、工場従業員給料の消費高、製造経費当期発生高のうち保険料・減価償却費・その他が製造固定費（固定製造間接費）となるのが分かります。また、製造固定費は、実際発生額の全額を当期の費用とします。

① 工場従業員給料

工場従業員給料	
当期支払高 720,000 円	期首未払高 85,000 円
	消費高
期末未払高 80,000 円	715,000 円 ⇒ 製造固定費として計上

② 製造固定費

$$\begin{aligned} & \text{工場従業員給料} + \text{保険料} + \text{減価償却費} + \text{その他} \\ &= 715,000 \text{ 円} + 210,000 \text{ 円} + 264,000 \text{ 円} + 185,000 \text{ 円} \\ &= 1,374,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

(6) 固定販売費・一般管理費

[資料]7. より、一般管理費はすべて固定費であることが分かります。

$$\begin{aligned} & \text{固定販売費} + \text{一般管理費} \\ &= 406,000 \text{ 円} + 475,000 \text{ 円} \\ &= 881,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

第 5 問

工程別総合原価計算に関する問題です。

1. 第 1 工程 (平均法)

		第 1 工程仕掛品			
		月初	完成		
原料	86,000	400	7,600	原料	1,748,000
加工(	175,000)	(200)	(7,600)	加工(	3,420,000)
		当月投入			
原料	1,800,000	<del>8,000</del>	仕損 200		
		7,800	( ? )		
加工(	3,380,000)	<del>( ? )</del>	月末		
		(7,700)	600	原料	138,000
			(300)	加工(	135,000)

(1) 月末仕掛品原価

平均法により月末仕掛品原価を計算します。

仕損の発生点が不明のため、正常仕損費を完成品と月末仕掛品の両者に負担させます。

$$\text{原料費} : \frac{86,000\text{円} + 1,800,000\text{円}}{400\text{個} + 7,800\text{個}} \times 600\text{個} = 138,000\text{円}$$

$$\text{加工費} : \frac{175,000\text{円} + 3,380,000\text{円}}{200\text{個} + 7,700\text{個}} \times 300\text{個} = 135,000\text{円}$$

$$\text{月末仕掛品原価} : 138,000\text{円} + 135,000\text{円} = 273,000\text{円}$$

(2) 完成品原価

$$\text{原料費} : 86,000\text{円} + 1,800,000\text{円} - 138,000\text{円} = 1,748,000\text{円}$$

$$\text{加工費} : 175,000\text{円} + 3,380,000\text{円} - 135,000\text{円} = 3,420,000\text{円}$$

$$\text{完成品原価} : 1,748,000\text{円} + 3,420,000\text{円} = 5,168,000\text{円}$$

2. 第 2 工程 (先入先出法)

第 1 工程から振替えられた前工程費は、直接材料費と同様に扱います。

		第 2 工程仕掛品			
		月初	完成		
前工	416,400	800	7,200	前工	4,904,400
加工(	241,600)	(600)	(7,200)	加工(	4,593,600)
		当月投入			
前工	5,168,000	7,600	仕損 200 (200)		
加工(	4,608,000)	(7,200)	月末		
			1,000	前工	680,000
			(400)	加工(	256,000)

(1) 月末仕掛品原価

先入先出法により月末仕掛品原価を計算します。

仕損が工程の終点で発生しています。問題文の指示により正常仕損費は完成品のみを負担させます。また、仕損品の評価額は、完成品原価から控除します。

$$\text{前工程費} : \frac{5,168,000\text{円}}{7,600\text{個}} \times 1,000\text{個} = 680,000\text{円}$$

$$\text{加工費} : \frac{4,608,000\text{円}}{7,200\text{個}} \times 400\text{個} = 256,000\text{円}$$

$$\text{月末仕掛品原価} : 680,000\text{円} + 256,000\text{円} = 936,000\text{円}$$

(2) 完成品原価

$$\text{前工程費} : 416,400\text{円} + 5,168,000\text{円} - 680,000\text{円} = 4,904,400\text{円}$$

$$\text{加工費} : 241,600\text{円} + 4,608,000\text{円} - 256,000\text{円} = 4,593,600\text{円}$$

$$\text{仕損品の評価額} : 210,000\text{円}$$

$$\text{完成品原価} : (4,904,400\text{円} + 4,593,600\text{円}) - 210,000\text{円} = 9,288,000\text{円}$$